



人材委員会 次世代人材育成WG:文部科学省  
2026年5月13日(水)

資料1-2  
科学技術・学術審議会 人材委員会  
次世代人材育成WG(第6回)  
令和8年5月13日

# 琉球大学次世代人材育成事業の紹介 および 大学の次世代人材育成事業定着の課題と提案

一般公開用

<説明者>  
宮國 泰史 (研究共創機構 特命准教授)

# 琉球大学「次世代人材育成事業」

次世代人材育成(環境)やコンソーシアム構築を目的とした事業が有機的につながった

## 「人材育成に関する総合パッケージ」

### 琉大SEARCHプログラム

 **琉大カガク院**  
(高校生対象)

 **琉大ハカセ塾**  
(小中学生対象)



JST委託事業 STELLAプログラム

STEAM型科学技術人材育成(小中高一体型)

### 実践型研究者育成(研究費支援)



STELLA修了生(大学1~2年)

大学自己資金(寄付金活用)


メンター

## 琉大サイエンス部

外部資金(競争的資金含)  
大学自己資金



小中高生や保護者のボトムアップや啓蒙、キャリア教育

  
Okinawa Attractive Science and Engineering Symposium  
沖縄科学技術教育シンポジウム

  
沖縄未来社会創生シンポジウム



中高生の研究発表支援/教員研修

大学自己資金

# 「大学進学後の支援」 および 「修了生OB／OG会」

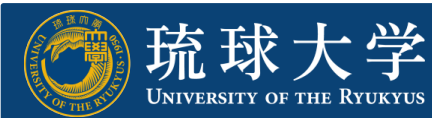
## ● 大学進学後の支援

### 琉大SEARCHプログラム



JST委託事業 STELLAプログラム

STEAM型科学技術人材育成(小中高生)



実践型研究者育成(研究費支援)



STELLA修了生(大学1～2年)

大学共通科目の開講  
(探究／研究実践ベース)

【構想／検討中】

### ▶学環プログラム設置へ

- ・学部横断文理融合プログラム
- ・早期の研究室配属
- ・探究／研究／PBL型
- ・アントレプレナー育成
- ・国際展開力育成

⇒ モデルプログラムの構築

琉大SEARCHプログラム等、  
次世代人材育成事業の知見活用

「研究者育成」として、高校までに高めた能力のシフトアップ

## ● 修了生OB／OG会

同窓会(OB／OG会)



SSH校・  
高校・高専等

大学生  
・社会人


琉球大学のほか、  
カルフォルニア大学(米国)  
ジェームス・クック大学(豪州)  
東北、筑波、東京、千葉、京都、広島、  
九州、長崎大学...等



修了後も、地域内外に蓄積される人的リソースのネットワーク化

# 「次世代人材育成事業」の社会連携・協力体制（10年かけて構築）

## 次世代人材育成連絡協議会



**琉球大学**  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

「次世代人材育成専門部会」  
研究共創機構（全学体制）

**沖縄県教育庁**（義務教育課／  
県立学校教育課）

**企業**

**教育／  
研究  
機関**



沖縄STEAM研究会  
（学校教員等の参加）

SSH校  
高校  
小中学校



修了生OB／OG会

沖縄県庁  
（科学技術振興課）

沖縄経済同友会

**沖縄県STEAM教育コンソーシアム**  
（沖縄県教育庁）※県立学校教育課長

地域の人材育成拠点として  
各組織・機関と連携  
（一部、県外高校等とも協力体制）

「個別実践者／協力者のネットワーク構築」および「研究ベースでの事業成果・効果の可視化」、  
「ステークホルダーへの周知」による組織内外の理解者のネットワーク構築

# 琉大型人材育成モデル(トップ層からボトムアップまで総合的な次世代人材育成)

中高生の研究発表支援／教員研修

「卓越した教育研究」型大学  
 「教育研究」型大学  
 「地域貢献」型大学

他大学・大学院(県外・国外含)

沖縄科学技術大学院大学

県外就職

沖縄電力株式会社  
 ／技術職・エンジニア  
 花王株式会社／研究職  
 国家公務員・学校教員・裁判所  
 医療実務職・金融

県内就職

琉球大学  
 UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

「地域貢献」型大学

実践型研究者育成(研究費支援)

STELLA修了生(大学1～2年)

教員  
 高校  
 中学校

女子生徒応募増  
 (約60～65%)

琉大SEARCHプログラム

琉大カガク院 (高校生対象)  
 琉大ハカセ塾 (小中学生対象)

JST委託事業 STELLAプログラム

STEAM型科学技術人材育成(小中高生)

進学  
 約46%

OB/OG会

進学  
 約43%

琉大が活躍部

小中高生や保護者のボトムアップや啓蒙、キャリア教育

「地域貢献」型大学として  
 次世代を担う人材の発掘・育成

小学校 未就学児 保護者

# 追跡調査結果(プログラムの経験が現在の自分に与えている影響)

表. プログラムの経験の自身の進路／考え方への影響(132名)

設問および属性	まったくそう思 わない	あまりそう思わ ない	どちらともい えない	ややそう思う	とてもそう思う
<b>【設問1】</b> 琉大ハカセ塾／琉大カガク院への参加は、その後の進路や考え方に影響を与える「 <u>重要なきっかけの一つ</u> 」だったと思いますか。	0 (0.0%)	8 (6.1%)	12 (9.1%)	40 (30.3%)	72 (54.5%)
	<b>肯定的意見: 87.4%</b>				
大学生	0	7	9	31	58
大学院生	0	0	0	0	7
社会人	0	0	3	3	5
その他	0	1	0	6	2
<b>【設問2】</b> 琉大ハカセ塾／琉大カガク院への参加がなければ、「 <u>現在の自分の進路や考え方は、今とは違っていた可能性がある</u> 」と感じますか。	3 (2.3%)	19 (14.4%)	31 (23.5%)	40 (30.3%)	39 (29.5%)
	<b>肯定的意見: 59.8%</b>				
大学生	3	15	21	36	30
大学院生	0	0	2	1	4
社会人	0	2	4	3	2
その他	0	2	4	0	3

## <肯定意見者の自由記述>

**プログラムが理系進路や研究職を目指す重要なトリガーとなったことを示唆**

- ▶ 研究職に就きたいかどうかを見極めるきっかけになった。もし参加しなければ、研究の道を志そうとは思わなかった(大学生／女性)
- ▶ より明確に研究者を目指せるようになった(大学生／女性)
- ▶ 研究開発分野に進む決め手の1つはジュニアドクターでの経験だった(大学生／男性)
- ▶ 科学ではない分野に進んでいたかもしれない(大学院生／女性)
- ▶ 自身の興味のある領域、高分子の奥深さ、面白さを教えて頂き、大学も高分子を深く学べる大学へ進学したから(大学院生／男性)
- ▶ 自然科学そのものへの興味の深度や幅が広がったと感じています。当初は物理に興味がありましたが、琉大カガク院を通じて、AIや数学にも興味が出て、現在はその方面に近い研究を行っています。(大学院生／男性)
- ▶ 高校生の頃に自分は、科学は崇高で天才的に頭の良い人しかできない職業だと思っていた。だけど、カガク院に参加する他の学生のバックグラウンドは多様で、いろんな人が目指している職業だと思えるようになったから(大学院生／女性)

## 次世代人材育成事業が直面する壁

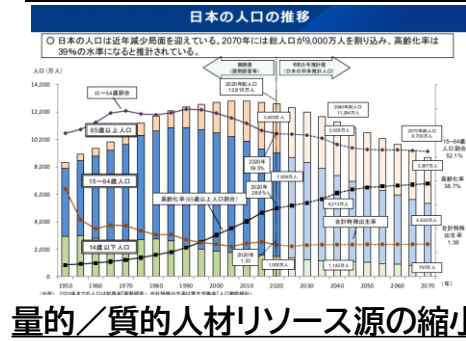
### 【事務／学内説明時】

- ▶ なんで大学が小中高生を支援するの？
- ▶ 大学に何のメリットがあるの？
- ▶ 大学生以外は利用できません(機材等)

### 【協力教員説明時】

- ▶ 負担が増える
- ▶ 「研究」や「教育」と比較して、「社会貢献／地域貢献」は評価されにくい

## 【少子化／人口減少社会】



## 大学特色／機能の分化

「地域貢献」型  
大学



「卓越した教育  
研究」型大学

「教育研究」型  
大学

- ▶ 地域産業の振興にも寄与
- ▶ 地域の人材輩出拠点かつ都市部への人材輩出拠点

## ＜大学が行う教育・人材育成観点の拡充の方向性案＞

外で勝手に育った人材をとる

「育てず、採る：遠洋漁業型」  
人材獲得姿勢

「大学生／社会人」  
対象の教育・人材育成姿勢

- ・社会に量的／質的人材リソース源が豊富であることが前提
- ・「次世代(小中高生)の育成」は大学以外の役割
- ・「次世代人材育成」は社会貢献活動のごく一部  
あるいは、「高大接続」を「目的」として実施
- ・「次世代人材育成」に協力する教員へのインセンティブ不足

「育てず、採る：遠洋漁業型」  
+  
「育てて、採る：育成漁業型」  
人材獲得姿勢

「大学生／社会人」  
+  
「次世代／小中高生」  
対象の教育・人材育成姿勢

- ・社会の量的／質的な人材リソースが縮小していることが前提
- ・大学自身が、大学教育に資する次世代人材を育成
- ・「次世代(小中高生)の育成」も大学の主軸ミッションのひとつ
- ・「高大接続」は目的ではなく、「ミッション遂行の結果のひとつ」
- ・ミッションに貢献する教員へのインセンティブの増加

## ＜「地域貢献型」大学で「次世代人材育成事業」の定着に有効な施策案＞

- ① 「次世代人材育成」の大学ミッション化の提言と、  
「次世代人材育成」に取り組む大学や、「次世代人材育成を行う組織」を持つ大学に対する評価
- ② 「次世代人材育成を行う組織」の構築・維持のための組織改編など、「次世代人材育成」に  
組織対組織で継続的に取り組むための体制整備や、教育・研究・コーディネート経験の知識を  
持つ専門人員等の人員配置のための予算処置

(「長期的な補助金」による予算処置など、理想的には「大学基幹経費化」による安定的な予算処置)

「地域貢献」型大学で特に重要

# 近年の大学に求められる社会貢献役割／機能の拡大と課題発生

## <大学に専門組織・人員配置がなければ困難>

**特定分野に  
特異な才能のある  
児童生徒**

指導計画の作成・運用に係る連携の参考イメージ (案)

学校  
・ 必要に応じて、相談支援体制や教育委員会に相談しながら、指導計画を作成  
・ 対象活動の実施状況を確認し、適宜、指導計画を改善  
・ 学校長・教員  
・ 児童生徒

実施機関  
・ 対象活動の実施内容（日時・会場）を決定し、実施計画を作成  
・ 対象活動の実施状況を確認し、適宜、指導計画を改善  
・ 大学  
・ 市区町村教育委員会

市区町村教育委員会  
・ 学校からの依頼内容や相談を受け、必要に応じて、相談支援体制の構築を行う  
・ 指導計画の共有・相談  
・ 相談支援（適切な実施機関につながる支援を含む）

相談支援体制  
・ 学校が指導計画の作成や実施に当たって、専門的見地からの助言を仰ぐことができるよう、全国を対象に、必要に応じて、相談支援体制の構築を行う  
・ 中核的役割として、プラットフォームと連携し、本邦内外の大学・研究機関と連携し、必要に応じて、相談支援体制の構築を行う  
・ 広域連携（広域連携推進協議会、総合教育センター等）による相談支援体制の構築

小中学生が一定の要件を満たした  
**大学や研究機関等**で、研究的・探究的活動

高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】  
～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～  
New Education, New Excellence, New Transf

社会変化に対応する高校教育を  
一丸となって実現することが必要

全てのステークホルダーの  
**共通理解となるビジョン**

高校  
大学  
地域住民  
産業界  
教育委員会・首長  
国

政策2-1 探究・STEAM教育を社会全体で支えるエコシステムの確立

探究・STEAM

「総合的な探究の時間」「理数探究」の実施 2022-  
高校普通科改革の実施 2022-

- ・ 普通科改革の実施（学際領域や地域社会に関する学科等の新設等）
- ・ 高校と大学・企業等との関係機関との連携協力体制の整備

⑧ 大学・企業研究者等

⑨ 国・大学・企業・研究機関

小中学校・高校(SSH校含)における  
**探究学習やアントレプレナーシップ教育のアドバイザー等**

大学資源  
の枯渇

東洋経済 オンライン

トップ 特集・連載 人気記事 動画

キャリア・教育

中高の探究学習で「大学の先生たち」が  
疲れている…なぜ？誰が悪い？"生徒、  
中高教員、大学の教員・研究者"の生の声  
に見る課題の本質

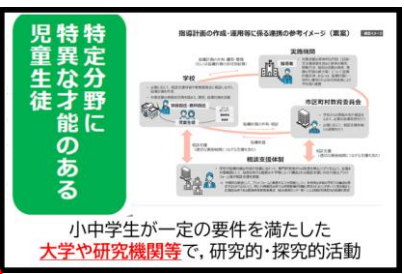
これらの施策を担当できる**専門部署と専門人員の配置が必要**

※「教育学部」は「学校教員養成」が本来の役割かつ、「学校教育」の枠組み内で機能するものであるため、これらの施策の対応部署として必ずしも的確ではない。そのため別に専門部署が必要となる。

# 「次世代人材育成組織と人員配置」による機能拡充

## <これまで>

【地域にとって】  
 ・大学の誰に／どこに相談すべきか不明  
 【大学にとって】  
 ・非効率的運用  
 ・個人的ネットワーク対応  
 ・教員の個人活動として認識される



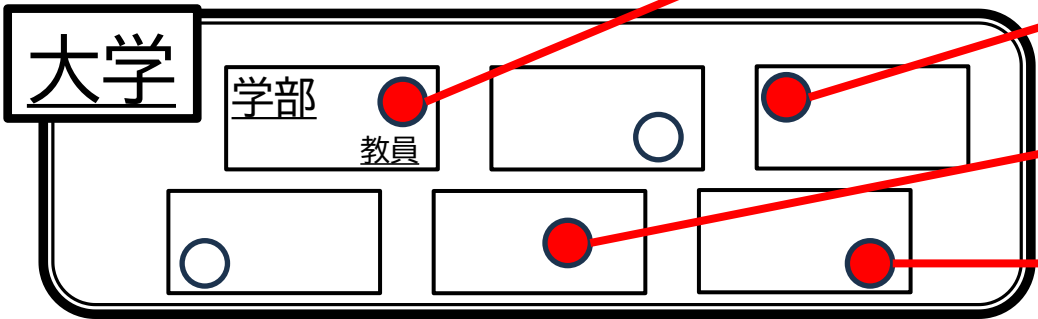
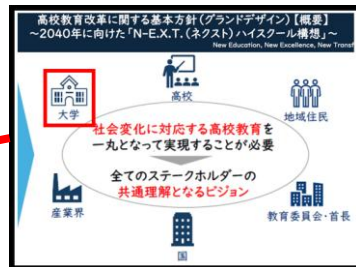
探究・STEAM教育を社会全体で支えるエコシステムの確立

探究・STEAM  
 「総合的な探究の時間」「理数探究」の実施 2022-  
 高校普通科改革の実施 2022-  
 普通科改革の実施（学際領域や地域社会に関する学科等の新設等）  
 高校と大学・企業等との関係強化との連携協力体制の整備

高校生  
 1 研究者の研究成果の子供向けアウトリーチ活動のインセンティブ設計の検討(内:文)  
 2 小中学生が最先端の探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育を受けられる機会の提供(文:経)  
 3 国境を越えた探究・STEAM活動を官民協働で支援(ヒビタテ！留学JAPAN/次期フェーズ)(文:経)

大学・企業  
 研究者等  
 企業や大学・研究機関等と学校・子供をつなぐ探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育のためのプラットフォームの構築(文:内:経:平)子)

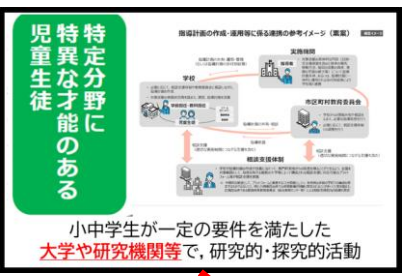
小中学校・高校(SSH校舎)における  
 探究学習やアントレプレナーシップ教育のアドバイザー等



その他の「児童・生徒を対象とした地域貢献活動」の依頼

## <今後>

対応組織に配置された**専門知識**  
 (教育・研究・コーディネート経験の  
 3つを備える)を持つ**教員**による直  
 接対応や学内教員との調整



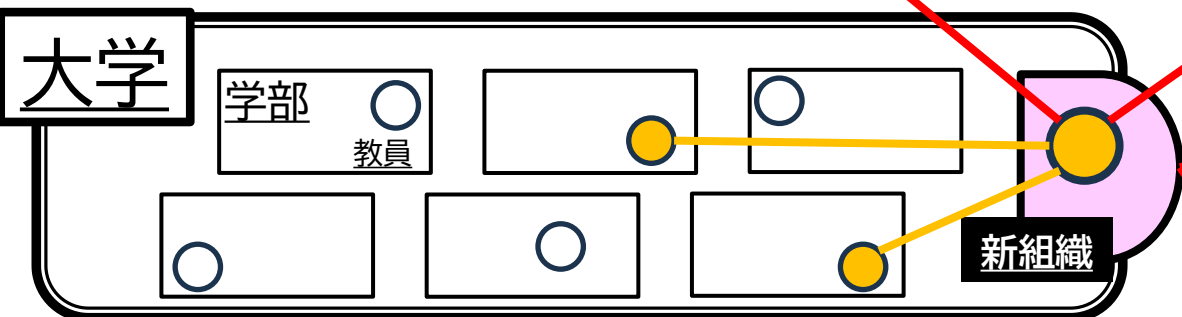
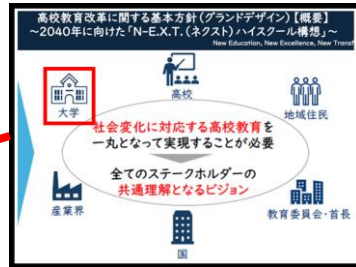
探究・STEAM教育を社会全体で支えるエコシステムの確立

探究・STEAM  
 「総合的な探究の時間」「理数探究」の実施 2022-  
 高校普通科改革の実施 2022-  
 普通科改革の実施（学際領域や地域社会に関する学科等の新設等）  
 高校と大学・企業等との関係強化との連携協力体制の整備

高校生  
 1 研究者の研究成果の子供向けアウトリーチ活動のインセンティブ設計の検討(内:文)  
 2 小中学生が最先端の探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育を受けられる機会の提供(文:経)  
 3 国境を越えた探究・STEAM活動を官民協働で支援(ヒビタテ！留学JAPAN/次期フェーズ)(文:経)

大学・企業  
 研究者等  
 企業や大学・研究機関等と学校・子供をつなぐ探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育のためのプラットフォームの構築(文:内:経:平)子)

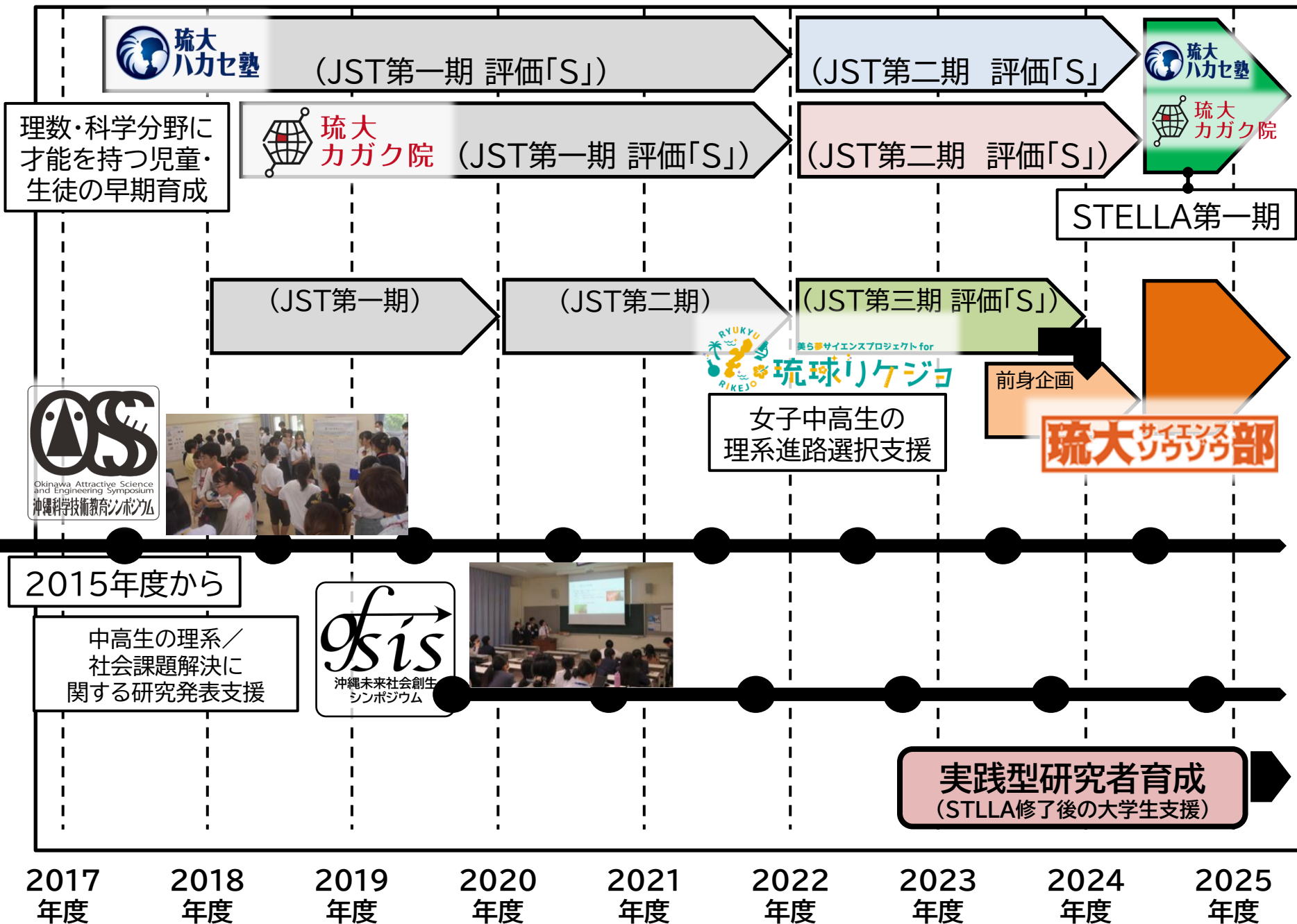
小中学校・高校(SSH校舎)における  
 探究学習やアントレプレナーシップ教育のアドバイザー等



その他の「児童・生徒を対象とした地域貢献活動」の依頼

# 參考資料

# 「次世代人材育成事業の歩み」



# 琉大サイエンスソウゾウ部 (ボトムアップ型科学教育・キャリア教育事業)

## 【未就学児, 小学生～高校生, 保護者・教員対象】

小中学生向け  
ボトムアップ型科学教育事業

### 琉大サイエンス部 マスター部

▶特別講義、科学実験、  
科学体験イベント等

継続

### 琉大ソウゾウ部

一般的な小中高生に対し、  
理系への関心等をも高める・  
サポートする取組を実施

#### ①理系体験プログラム

▶特別講義、科学実験、  
科学体験、観察会等

継続

#### ②理系紹介プログラム

▶進路講演、進路選択相談  
会、理系紹介等

継続

#### ③サイエンス交流プログラム

▶理系講演会等

女子中高生向け  
理系進路選択支援事業

### 琉球リケジョ

▶進路講演、進路相談会、  
出前授業、理系体験イベント、  
保護者交流、教員研修等

### <関連企画>【J S T 事業】

### 女子中高生の 理系進路支援プログラム

総額1,800万円(300万円/年)

第一期:2018～2019年度

第二期:2020～2021年度

第三期:2022～2023年度

<学内経費>・重点配分経費  
・企業からの寄付金事業費  
<外部資金>・沖縄県科学技術振興予算  
等活用

## 琉大サイエンス部



出前授業／科学実験教室



離島での科学実験教室  
(オンライン／現地同時型)



大学生と高校生(保護者)  
との進路座談会



教員／指導者向け研修会

主催：国立大学法人 琉球大学  
共催：沖縄県教育委員会

12月13日(土)  
10:00～16:00  
琉球大学教育学部棟1階

- テーマ  
OASES  
自然科学や技術に関わる実験・  
調査研究  
OFSIS  
社会の様々な課題に関する研究  
や調査などで得られた成果

- 参加費 無料(当日受付)  
中高生、学校・大学関係者、保護者、  
研究・探究活動に関心がある方

- 発表資格・申込について  
OASES：中学生、高校生、  
高専学生(3年生以下)  
OFSIS：県内の高校生  
(グループ発表可)

申込期限：12月5日(金)



詳細は各シンポジウムのQRコードから入手してください



OASES

OFSIS

Okina**wa** **A**ttractive **S**cience and **E**ngineering **S**ymposium  
沖縄科学技術教育シンポジウム

Okina**wa** **F**uture **S**ociety **I**nitiative **S**ymposium  
沖縄未来社会創生シンポジウム



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

- 問い合わせ 琉球大学 研究共創機構  
次世代人材育成事務局  
r-jisedai@acs.u-ryukyu.ac.jp  
☎ 098-895-8985

## 琉球大学探究成果発表会 実施報告

### 実施体制

実行委員会：

琉球大学教育学部

小野寺 清光

齊藤 由紀子

城間 吉貴

照屋 俊明

濱田 栄作

山城 康一

琉球大学大学院教育学研究科

中村 元紀

琉球大学研究共創機構

東江 あやか

宮國 泰史

沖縄県教育庁県立学校教育課

嘉数 晋

事務局：琉球大学研究共創機構 次世代人材育成事務局

# 大学進学後の支援（公募審査型の研究活動費支援企画）

## 1. 学部1～2年次の学生

※琉大八カセ塾／琉大カガク院の修了経験がある琉球大学進学者

## 2. 高校在学時より研究活動等の実績を持ち、意欲のある学生

## 3. 「研究サポート教員」の確保・承諾を得ることができる学生

財団寄付金の活用  
「岸本遺贈基金」

提出された研究計画内容および  
研究実績をWGで評価・採択決定

## (2) 採択件数・支援金額・支援期間

採択件数： 2件

支援金額： **最大25万円**／件

支援期間： ～令和8年3月末日

<支援費内容>

- ・研究／実験消耗品 ・図書購入費
- ・学会年会費／参加費 ・論文投稿料 ・旅費

**第二段階での研究経験を有し、  
全国大会や学会等で発表経験を持つ  
学生2名の研究を支援**



中学1年～高校2年(高校3年生時にも発表活動)

高校1・2年(高校3年生時にも発表活動)

第一段階

第二段階



第一段階

第二段階

大学



修了生向けの  
大学共通教育科目

# 琉大SEARCHプログラム概要 (STELLAプログラム)

## Society 5.0 時代の価値創造を実現できる次世代の科学技術人材

育てたい能力・資質

旺盛な科学的探究心      科学的問題解決力      研究実践力      豊かなコミュニケーション力      自己学習力

（小学5年未満含む）**大学自己経費**  
受講前の支援プログラム



個別最適な学び (アダプティブラーニング)      「小中高一体型」育成プログラム

### 早期認定選抜

一次選抜 (40名)

- ▶ 知識・技能(概念)習得
- ▶ STEAM型探究実践学習
- ▶ ハイフレックス型授業
- ▶ ものづくり/先端研究
- ▶ /文理融合/総合知
- ▶ アントレプレナーシップ

個々の意欲・能力に応じた個別の授業選択

【第一段階】  
授業型

二次選抜 (15~20名)

### 発展研究コース

- ▶ 大学研究室配属
- ▶ 国際学会
- ▶ 英語論文発表
- ▶ スタートアップコンテスト

### 実践研究コース

- ▶ 琉大SEARCHラボ等
- ▶ 国内学会発表
- ▶ 科学作品展

【第二段階段階】  
個別の探究・研究

支援プログラム (大学自己経費)  
大学進学後の

次世代の科学技術人材

能力 (コンピテンシーやエージェンシー) の把握と伸長促進

# 第一段階プログラムの実施状況

※学年や発達段階が低い受講生や内容理解が難しい受講生に対しては、サブコーディネータやメンターがサポート



高校生

中学生

高校生

高校生

小学生

中学生

9/27 探究実践演習(アクティブ・ラーニング)  
(研究者のデータを使った未解決テーマの仮説・検証方法構築)



8/31 論文読解講座

中学生

高校生



8/30 数学概論

高校生

高校生

小学生

中学生



9/20 陸上養殖プロジェクト

高校生

高校生

小学生

小学生



8/31 地学概論

高校生

中学生

**学齢で区分しない  
小中高一体型の  
プログラムを展開**

国内外の人材育成プログラムの  
情報も収集・分析・改善予定



# 「琉大SEARCH Lab.」の実際の様子

大学自己経費  
にて整備

琉球大学 次世代人材育成事業

## 琉大SEARCH Lab.

Science Education Academy of the Ryukyus

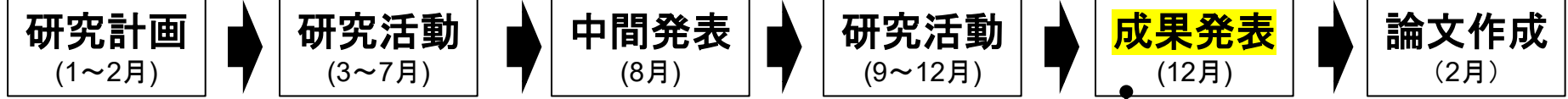


研究分野の異なる  
受講生同士の創発促進

# 第二段階教育プログラム **【発展研究コース】**

研究期間：15ヶ月（1月～翌年3月）  
 研究時間：150時間以上／年、月2回程度  
 活動期間：1～5年（学術的・発展的・継続的テーマ）

成長を促す手段としての研究成果の  
 アウトプットの推奨および環境構築



研究室での活動

高校生



中学生

中間報告会

高校生

Okinawa Attractive Science and Engineering Symposium  
 沖縄科学技術教育シンポジウム

理系学的研究

ofsis  
 沖縄未来社会創生シンポジウム

社会的課題の解決を目指す研究

**大学自己負担で実施**

コーディネータ  
 (サブ・コーディネータ)



面談や英語論文指導

教員やメンターと連携  
 ・育成プログラム作成  
 ・個性や特性の情報共有

**研究プログラム** 大学研究室配属

個別指導	研究活動	異分野交流
コンテスト	学会発表(英語)	社会実装
チームサポート	論文発表(英語)	研究成果の海外での発表

メンター 大学院生

● 教員・研究者



中学生

地質学会での発表



高校生

国際学会での発表

# 国際性を持った活動等（オーストラリアでの研究活動）

日程：2025年8月16日～8月20日

訪問先：アデレード（オーストラリア）

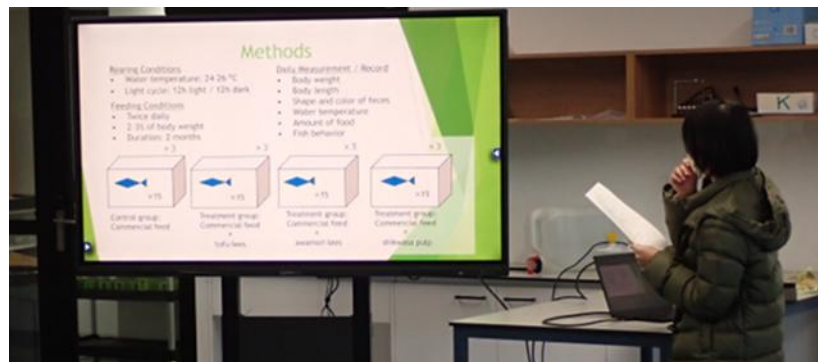
- ・アデレード大学

- ・Adelaide Botanic High

派遣人数：高校生2名（+引率教員）



研究施設見学



現地研究会での英語プレゼン



現地高校生との共同活動



より良い次世代人材育成環境を構築し、  
次の世代に引き継ぎたい